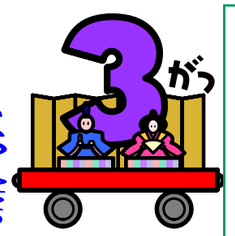
きりすとこどもえん　3月園だより



２０２０年度　年主題〈こころが満たされる〉

1･2歳児３月主題「だいすき」

月のねがい

◎神さま、イエス様を大好きと感じる(0)
◎外に出て風や花や虫など春の自然を感じる(0)
◎保育者や友だちへの親しみと信頼が深くなり安心して過ごす
◎大丈夫と言ってくださる神様に感謝する(0,1.2)
◎大好きな友だちと進級を楽しみに待つ(1.2)
◎自分でできることが増えて自信を持って生活する(1.2)

3･4･5歳児３月主題　「希望をもって」

月のねがい

◎いつも一緒にいてくださる神さまを信頼し、大きくなることを楽しみにする(3)
◎友だちと工夫して遊ぶ楽しさを十分味わう(3)
◎友だちや保育者とのつながりを喜び心が満たされる(3)
◎これまで守って下さった神さまがこれからも導いて下さることを信じ感謝する
◎様々な場面で自分の思いや考えを表し友だちと互いに分かち合いながら取り組む(4..5)
◎大きくなったことを喜び新しい生活に希望を持つ(4.5)

今月の聖句

「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら3つです。」

Ⅰコリント13:13

ある二人の方が、同じ病にかかりました。死に至る程の病ではなく、治療すれば治る病であったにもかかわらず、一人の方は完治し、もう一人の方は亡くなってしまいました。理由は、一方は希望を持ち、他方は希望を失ったからです。後者は死に至る病であるわけではないのに、そのことが心の大きな重荷となり、やる気をなくし、みるみるうちに元気を失っていきました。希望の有無、これはとても大きなことであることが分かります。

「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。」これは聖書の中でもよく知られている言葉の一つです。信仰と希望と愛、それは永遠なもの、変わらない普遍的真理であるということです。信仰と希望は、神さまの存在と救いを信じ希望していくことです。一方、愛はその信仰と希望が形となって現わされることであり、神さまとの共同作業です。親子の愛であれ、夫婦の愛であれ、兄弟姉妹の愛であれ、友達同士での愛であれ、その現れ方は違っても、本質において愛に変わりはありません。揺るぎない信じる存在があり、失わない希望があるところには、そのような具体的な目に見える愛の行為が生まれます。

まだまだコロナ禍の生活が続く中で、希望を失いやすい状況にありますが、むしろこういう時にこそ、希望を持ち続けることが大切なのです。

協力牧師　池田基宣

３月の行事予定

2 日（火）	役員会
4 日（木）	弁当日
6 日（土）	第 63 回卒園式
	父母の会総会（書面決議）
10 日（水）	誕生会（2 才以上３月生）
13 日（土）	参観日（ﾋｶﾘ）入園準備説明会
19 日（金）	修了式（１号午前保育）
30･31 日	休園日（新年度準備の為）

４月の行事予定

3 日（土）	第 64 回入園式･クラス会
8 日（木）	始園式（１号午前保育）
8 日（木）～ 14 日（水）	1 号新入園児慣らし保育
28 日（水）	弁当日
	田植え・交通安全教室

目に見えない確かなもの

3学期が始まったかと思うと、あっという間に3月！こども園でも各クラス進級に向けての最終段階。ひかり･めぐみ組ではトイレ時間。「ひかり組のお兄ちゃんになったら立っておしっこできるんだね～」と憧れを持たせたり、「さすがもうすぐあい組さん!おしっこ終わったらすぐお部屋に帰っちゃう～！」と進級することへの意欲となるような声掛けもよく聞こえてきます。

先日、1歳児のR君がトイレが終わると自分のオムツ、ズボンを持って給食室へダッシュ!!まさか?!給食室の中に??と慌てて追いかけると給食室の入り口で止まり、給食の先生に「見ててね！」と言ってオムツ、ズボンを1人で履いて見せたのです✨給食の先生方もその姿をしっかり見て、「R君、すごいね」と褒めていました。「R君、給食の先生に自分でできるよって見せてきたの？」と聞くと「うん!!!」と、とっても嬉しそうに自慢気な顔を見せてくれました。つい最近までおしり丸出しで廊下を走ってたのに(笑)･･･毎日の小さな¨できた¨から¨1人でもできる¨の自信へとつながった瞬間の場面でした。

私事ですが、高校の息子が校内弁論大会でクラス代表として選ばれ、自分の意見を全校生徒の前で発表する機会を与えられました。題目は「人間のすばらしさ」。息子が書いた小論文的な文章を読ませてもらいました。でも、私にはさっぱりで、息子に「ごめん。お母さん、何回も読まないと理解不能だわ」の声に、「簡単に言うと、人間てどんな機械よりもすごいから自信を持ってって事を伝えたかったのよ。」と言われました。親バカかもしれませんが息子の今までの成長の過程を思い出しながら、「そんなことも言えるようになってすごいね」と話しながら、目では見えない心の成長を感じました。親なら誰しも我が子の成長は嬉しいものです。でもその成長の中には嬉しいことばかりではなく、悲しさや悔しさ、辛さなどをバネにしての成長もあります。目で見える成長から目では見えない心の成長。小さな¨できた¨の積み重ねから¨できるよ¨の自信へ。色々な出来事や思い(気持ち)を経験して自分を受け入れることから受け入れてもらう自信へ。子どもたちひとり1人が意欲と自信を持って安心して進級を迎えられるように、この1年の成長を子どもたち、保護者の方々と一緒に喜びながら過ごしていきたいと思います。

主任　伊豆元

ひかりの子どもらしく歩む　一巡りの旅路

穏やかで春めいてきた日々から、一転して嵐のような荒れる数日を味わいました。それでも一雨ごとに暖かさが増し、木々の葉の芽吹きの中に春のささやきが聞こえてきそうです。三月の始めは啓蟄（けいちつ）と呼ばれ、冬ごもりの虫が這い出してくる季節。子どもたちも一回り大きくなった身体で、変わらず元気よく飛び回っています。二度目の緊急事態宣言の効果もあってか、全国的に新型コロナの感染状況も落ち着きを見せているようです。しかしながら、まだまだ予断を許さない都市部における医療･介護施設などのエッセンシャルワーカーの保護者のために、休み無く保育を続けておられる保育者の皆さんに心から敬意を表し、平安を祈りたいと思います。

幼児期の生活は、家族という親しい人間関係の生活から、生活の場や他者との関係、興味や関心が急激に広がる世界ともいえます。まさに依存から自立への始まりです。はじめての集団生活で、多くの友だちと活動を展開する充実感や満足感を味わうことができたでしょうか。時には感情をぶつけ合う中で、喜びや悲しみ、楽しさや悲しさを感じながら自分の気持ちを整えていくことができたでしょうか。様々な環境の中で、好奇心や探求心を呼び起こすようなものに出会い、友だちや教師と感動を共にすることができたでしょうか。それぞれの一巡りの旅の中で、子どもたちが経験した多くのことは、一見マイナスに見えることでも、後には豊かな恵みに変化していく姿も知ることが出来て幸いでした。子どもたちが輝かせる瞳の光が私たちを支える大きな力であることは確かなことです。

『ひかりのこどもらしくあゆみなさい』いつものように年長児の「卒園の歌」の歌を聞きながら、この聖句を卒園記念の聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間は、まさに至福の時です。個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由に探求できる環境が整えられたのか･･･。静かに内省する時でもあります。しかし、このコロナ禍にあって、何よりもたくさんの体験環境を備えることができたことに感謝でした。光は明るく、温かく私たちを照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。私たちは、すべての園児たちがキリストの光に照らされ、「神様の子ども」として成長するようにと祈りつつ保育を行ってきました。子どもたちを忍耐強く、温かく見つめ養い育てていくことは、希望に胸ふくらませて春を待つ気持ちに通じます。金子みすゞの詩にあるように、昼の星やたんぽぽの根のごとく、見えないけれど確かに在る神さまの大きな愛と人々の愛に満たされ、心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈っております。どのような時代にあっても、**一番大切なものは、いつも目に見えない**のだということを忘れずにいてほしいと願います。この一年間、保護者の方々には色々な面でご支援ご協力を戴き、誠にありがとうございました。多くの足らざるところをお詫びし、心より感謝申し上げます。

園長

幼児期は社会性の土台つくり

子どもは１日の多くを占めている遊びの時間を通して、
※勝ち負けのうれしさ、悔しさ
※自由に創造する力
※がんばったときの達成感
※挑戦する積極性
※最後までやり抜く力、集中力
など、人生において重要となる様々な経験をしています。
また、子ども同士で遊ぶ中では、
※「〇〇ちゃんと助けよう」といった思いやり
※「こういうことをしちゃいけない」などの道徳性
※人との関係を築くためのコミニュケーション力
なども育むことができます。子どもにとって勉強もとても大切ですが、社会性は子どもが自立していく上で最も重要な力といえます。人生の財産になる大切な力をしっかりと育んであげましょう。

社会性とは、「聴く」「話す」「従う」など、他人とうまく関わるための基礎的な力となるのです。

先日、子どもたちとおゆうぎ会に向け準備をしていた時のことです。「どうすればかっこいいポーズになるのか？」と試行錯誤しながら稽古し、ある時その成果を学園長に観てもらったのです。その時の子どもたちの真剣なこと！これでもかと言わんばかりに集中して踊っていました。そしてその後、学園長からピリリとスパイスのきいたコメントを貰いました。手の先を伸ばすこと、目で手の先を追うこと、腰を下ろして回ること・・・など。それを子どもたちは目をキラキラ輝かせ、まっすぐに背中を伸ばして学園長の方を見て**話を聞いて**いたのです。その時の姿のかっこよかったこと。まさしく、集中してやり抜こうとする途中の姿でした。

楽しいものを作ろうとしている、友だちと協力し合い目標に向かって努力していこうとしている、年長児としての成長を感じたひとときでした。

彼らが小学校へ進学し、遊び学んでいくうちに思い遣りや道徳性、他人への信頼感などを獲得して、たくましく成長していく姿が見えてとても嬉しく感動しました。

卒園、進級を迎える３月です。保護者の皆様と子どもたちの成長を共に喜びあいたいと思います。

園長